

2 助成対象のまちづくり活動を行ったふりかえり

申請書に記載の活動の「目的、目標、計画」に基づきふりかえりをご記入ください。

（１）目標達成（目標を達成できたか、達成できなかったものがあればその理由）

本活動では、来場者延べ 500 名、ワークショップ参加子ども 50 名以上を目標として実施しました。

当日は開催途中より降雨となり、来場者数は約 400 名程度となり、当初目標には到達しませんでした。

しかしながら、雨天にもかかわらず多くの地域住民が来場し、ワークショップ参加者数は 55 名となり、体験プログラムについては概ね計画通り実施することができました。

また、安全確保を最優先とし、テント設営やスタッフ誘導體制を強化したことで、大きな事故や混乱もなく運営を完了することができました。

天候という外的要因はあったものの、地域交流の場としての機能は十分に果たせたと考えています。

（２）活動の成果（参加者や地域住民の評価、活動を通して得られた成果など）

本活動では、地域住民の交流促進と子どもたちの主体的な体験機会の創出を目的に、複数の体験型プログラムを実施しました。

読み聞かせは資格を有する絵本士により実施し、専門性のある内容で安心して参加できる環境を整えました。

当初計画していた農業体験（稲わらを用いた体験）は、資材確保が困難となったため、内容を変更し「種まき体験」を実施しました。

身近な野菜の種を実際に手に取り、植え付けの工程を体験することで、食への関心や農業への理解を深める機会となりました。

また、絵の具を使用した大型布へのアート体験では、子どもたちが自由に表現しながら協働制作を行い、主体性と創造性を育む場となりました。

地域ボランティア 2 名が参加し、活動を通じた地域とのつながりも広がりました。

アンケート結果では満足度 95% と高い評価を得ました。残りの 5% は当日の降雨による影響であり、プログラム内容そのものに対する評価は概ね良好でした。

天候や資材変更といった状況の中でも、安全かつ円滑に実施でき、地域交流の場として一定の成果を上げることができました。

（３）活動における工夫（活動の目標達成のために工夫した点など）

安全対策として大型テントを設置し、熱中症対策を講じるとともに、降雨時でも活動を継続できる体制を整えました。天候の変化がある中でも、安全かつ円滑に実施できる環境づくりに努めました。

広報面では、地域へのチラシ配布と SNS 発信を併用することで、子育て世代のみならず高齢者層にも周知を行い、多世代の参加につなげました。

また、各プログラムは専門性を担保するため、すべて有資格者によって実施しました。

- ・アート体験：アートセラピストによる指導
- ・農業体験：現役農家による実施
- ・絵本読み聞かせ：資格を有する絵本士による実施

専門的知見を持つ講師陣により、安心・安全で質の高い体験機会を提供することができました。

(4) 活動の改善点(課題や反省点と、それを踏まえ今後の改善などを具体的に)

改善点として、

- ・受付導線の混雑
- ・ワークショップ時間帯の集中
- ・ボランティア間の情報共有不足

今後は、

- ・時間帯予約制の導入
- ・事前オンライン打合せの実施
- ・運営マニュアルの整備

を行い、より円滑な運営体制を構築します。

(5) 次年度の活動計画(具体的な活動の見通しなど)

次年度は、本年度の実績を踏まえ、活動の質と社会性を高める取り組みを予定しています。

2026年3月開催回より「子ども選挙」の導入を予定しています。子どもたちが主体的に意見を表明し、企画の一部を投票で決定する仕組みを取り入れることで、主体性と社会参加意識を育む機会を創出します。

また、有料体験エリアの充実を図り、持続可能な運営体制の構築を目指します。体験の質を向上させるとともに、自主財源の確保により安定的な活動継続を目指します。

三世代交流型プログラムをさらに拡充し、子ども・保護者・高齢者が自然に関わり合える場づくりを強化します。

加えて、外国人と日本人が交流できるプログラムを企画し、多文化共生の視点を取り入れた地域交流を推進します。

さらに、防犯意識の向上を目的とした取組も検討しています。

地域の見守りや安全に関する理解を深める体験型プログラムを導入し、子どもたちが「地域で守られている存在」であることを実感できる環境づくりを進めます。

地域農家やクリエイターとの連携も強化し、地域資源を活かした体験型マーケットとして発展させていきます。

(6) 活動を進めるうえで、助成事業について改善を望むこと

本助成により、

- ・講師謝礼の確保
- ・安全管理体制の強化
- ・広報活動の充実

が実現し、計画していた体験型プログラムの質を保った形で実施することができました。

特に設立初年度の団体にとって、本助成制度は活動資金面のみならず、団体としての信頼性向上にも大きく寄与しました。

また、申請段階から実績報告に至るまで、事務局の皆様による丁寧なご助言と継続的なサポートをいただき、活動の方向性や計画の整理を行う上で大きな支えとなりました。

今後も、スタートアップ団体が地域に根ざした活動を継続できるよう、こうした伴走型の支援体制が維持されることを期待しております。

まちづくり活動の実施記録

実施記録は 1 ページにおさまるように記入してください。

年	日付	活動項目	活動内容	参加者数や 印刷物の 発行部数等
2025	5 月 1 6 日	活動打合せ	挨拶・イベントに向けての打合せ	スタッフ 8 名
	6 月 2 0 日	活動打合せ	出店者確定・内容確定	スタッフ 9 名
	7 月 1 0 日	チラシ作成	イベント配布用チラシ打合せ	スタッフ 3 名 2,000 枚/4 回
	9 月 1 9 日	事前準備	準備 テント設営、場所指定	スタッフ 2 名
	9 月 2 0 日	イベント当日	こどあそマーケット実施	スタッフ 11 名 イベント参加人数 約 400 名
2026	1 0 月 1 7 日	活動打合せ	反省点・次回への提案	スタッフ 9 名
	2 月 2 1 日	活動報告会	2 0 2 5 年度 活動報告	スタッフ 9 名

備考 用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

まちづくり活動の決算書

1 支出

助成対象のまちづくり活動における支出をご記入ください。

費 目 手引きの費目を参照		活動項目	領収書番号	金 額 (円)
① 助成対象事業支出額				53,617
① の内訳	消耗品費	■ワークショップ関連費用		
		●ワークショップ 布アート		
		アクリル絵具 6色	①	5,513
		絵筆 筆 ブラシ 60本セット	②	470
		多目的ブラシ毛 5サイズセット@500×2	③	1,000
		50枚入り 使い捨てエプロン @750×2	④、⑤	1,500
		アームカバー 使い捨て 約100個セット	⑥	850
		●ワークショップ 農業体験		
		タキイ種苗 リーフレタスミックス	⑦	660
		未晒フードカップ 浅 1000ml	⑧	898
		培養土	⑨	880
		●ワークショップ備品		
		リストバンド 100枚	⑩	465
	謝金	■謝金		
		アート講師	⑪	13,400
		農業講師	⑫	6,700
		絵本読み聞かせ講師、 (交通費、駐車場代込)	⑬	6,700
	印刷製本費	■印刷製本費		
		告知用チラシ印刷費用 2,000枚	⑭	5,170
	会場費	■会場費		
		建中寺公園使用料 1.5日 東土木事務所	⑮	9,366
まちづくり活動助成金（申請金額） ※上限金額：1回目は5万円、2回目、3回目では10万円				50,000

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。